

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成29年 1月24日更新

事務事業名	小学校運動部活動の社会体育移行支援事業					<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名 岐部 則夫
	施策	22	生涯スポーツの推進			所属課	生涯学習課	担当者名 山田 清
	施策の柱	71	スポーツへの参加機会の提供			所属班	スポーツ振興班	(内線) 1518
予算科目	会計一般	款 10	項 6	目 1	事業連番 11665	根拠法令	成果優先度評価結果 : ⑤ コスト削減優先度評価結果 : ⑨	
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 27年度で終了 <input checked="" type="checkbox"/> 27年度から開始					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 27 ~ 30 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度	

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	平成31年度から県内の小学校運動部活動が廃止されることに伴い、合志市内の児童が発達に応じた適切な運動ができるよう、生涯にわたってスポーツに親しむ基礎を育む機会を与えられるように環境整備を行う。 地域や学校の実態を踏まえ、児童のスポーツ環境を確保する。
【業務の流れ】	スポーツ環境整備会議(仮称)の開催、コーディネーターの活用、指導者の発掘および資質向上のための研修会実施、活動環境・活動体制の整備
【主な予算費目】	会議費用弁償、コーディネーター報償費、指導者研修会講師報償費
【意見や要望】	利害関係者である小学生の保護者から、小学校部活動が廃止されることへの不安の声、移行後の安心できる受入体制を早い時期での構築を要望する声がある。

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分: 新規
① 手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動) (DO)	28年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
現状把握から方向性を見出すためスポーツ環境整備会議を開催。コーディネーターを選定し、社会体育移行に向けての助言・指導により、活動環境や指導者の確保を含めた活動体制づくりを行なう。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
⇒ ア: 会議の開催	⇒ 回 平成27年度補正予算での事業開始による費用増。
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
⇒ 市内児童	⇒ ア: 市内児童数 人
	⇒ イ: 小学校運動部活動参加児童数 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
⇒ スポーツに親しむ	⇒ ア: 児童が参加できる新規スポーツ団体数 団体
	⇒ イ:
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠	
総トータルコスト 全体計画 ~30年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	実績(決算)	実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	29年度 予定	30年度 見込	見込
① 活動指標	ア	回			3	3	4	4	4	
	イ									
② 対象指標	ア	人			4,307	4,453	4,362	4,355	4,422	
	イ	人			934	0	900	800	500	
③ 成果指標	ア	団体			3	0	5	8	26	
	イ									
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円				43	124	124	124
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	人件費	一般財源	千円				95	125	125	125
		(A) 事業費計	千円			0	138	249	249	249
		(A)のうち指定経費	千円			0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円			0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人			0	4	4	4	4
延べ業務時間	時間			0	238	250	300	400		
(B) 人件費計	千円			0	883	0	0	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円			0	1,021	249	249	249		

事務事業名	小学校運動部活動の社会体育移行支援事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	---------------------	-----	-------------	-----	-------

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 社会体育移行へは、受け入れ体制が検討委員会で整わず、すぐに移行できるまでに至らなかった。
	②28年度目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 受け入れ体制の検討を重ねる必要がある。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 早急に検討を重ねて、対象者への周知が必要である。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 平成31年度に完全移行となるので、他に類似の事業は無いが、小中学校部活動助成事業との連携が考えられる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 検討委員会に関係する計上であり、今後は指導者講習等の費用が見込まれる。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 児童の活動に掛かる事業であり、削減できない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 小学校部活動で活動する児童数は少ないが、対象はすべての児童である。
	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 現状は学校部活動であり、行政が対応すべきである。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

児童の成長に応じてスポーツの機会を与えることが大事であり、慎重な協議が必要である。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p> <input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)  <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)  <input type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)         </p> <p>多方面からの情報収集や協力により、より良い受け入れ体制の確立を図る必要がある。</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						